



白川郷学園の学校課題

- ・素直で明るく、人のために誠実に働くことができるよさを伸ばしたい
- ・誰一人取り残さず、基礎的・基本的な学力を定着できるようにしたい
- ・目標に向かって失敗を恐れず挑戦し、最後までやり抜く力を育てたい
- ・現状に満足せず、変化を恐れず、仲間と協働しながら新たな価値を生み出す創造力を育てたい
- ・他者の幸せを願って行動できる力を育てたい
- ・自分の学園、自分の村として誇りをもって挑戦し、自分たちの力で動かして宝物をつくっていく力を育てたい【未来の創り手育て】

白川村教育の方針と重点課題

- “ひとりだちの姿”とは？を明確に共有し、児童生徒一人ひとりの資質・能力を高める
～挑戦の姿とは 創造の姿とは 貢献の姿とは～
- ・高めたい資質・能力を全ての児童生徒から引き出し伸ばす授業づくり
 - ・個に応じた多様な学びの場づくり
 - ・「担い手育て」から「創り手育て」へのステップアップ
 - ・地域学校協働活動による「開かれた教育課程」展開と「職員の働き方改革」の推進

白川郷学園のミッション

- ①一村一校 白川村の未来を支え、未来を創る場所 村の20年後、30年後の「未来の創り手」を育てる学校
- ②飛騨教育事務所指定研修校 飛騨地区の学校に成果の一端を広める学校
- ③岐阜県内の義務教育学校のパイオニア校 同志である義務教育学校に成果の一端を広める学校
- ④飛騨教育事務所指定研修校として、児童生徒も教職員も育つ学校 教職員こそが夢を語り合い、失敗を恐れず挑戦して新たな教育活動を創り出すことができる学校

白川村教育の教育目標

心豊かで、たくましい、白川村の未来を担う人づくり

白川郷学園の教育目標

ひとりだち

挑戦

創造

貢献

育成をめざす資質・能力

志を高くもって、失敗を恐れず最後までやり抜く力

よりよいものを求めて新たな価値を創り出す力

仲間の幸せを願って行動する力

「オール白川郷学園」としての指導の重点

学びづくり

「好き」を育み、「得意」を伸ばす生涯にわたって学び続ける力を育む

■主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- 生きて働く「知識・技能」の定着
- 「意志ある学び」を生み出す授業
- 仲間やAIとの「深め合い」のある授業
- 「探究的な学習」位置付け

■自立した学習者を育てる指導

- 「学習サイクル」の確立
- 個別最適な学び、個別探究学習
- 情報活用能力、学校図書館活用の推進

■白川村の未来の創り手を育てる村民学の探究学習へのアップデート

- ・【ふるさと学習】白川村の教育資源による本物感動体験を通じて、村の魅力を徹底的に学ぶ
- ・【ビジネス学習】社会の困りごとから課題を見だし、トライ&エラーを重ねながら広い視野で解決策に挑み、新たな価値を創り出す学び

健康づくり

自己肯定感・自己有用感を高める人権感覚を磨き、多様性を認め合い協働する力を育む

■かけがえのない命が輝く居場所づくり、絆づくり

- 「ふきのとう」、「まなび」、「ひかり」→一人ひとりのニーズや願いを大切に、よさを引き出し、伸ばし、自信に結ぶ

■「これが私です！」と胸を張ることができるようになる指導

■自分も仲間も大切に行動、貢献する人権教育の推進

仲間づくり

当事者意識をもって、自分の意見をもつ仲間と対話し、合意ができる力を育む

■自分や自分たちで学園を動かすために行動できるようにする指導

- 子ども主体のルールメイキング
- 行事の創造（体育大会、宿泊研修、10周年記念）
- 提案力、機動力、創造力、改善力、発信力を育む特別活動
 - ・異学年とコラボ活動、児童生徒会、LP活動と学級の活動
 - ・ブロック活動
 - ・学級目標となりた自分の達成
 - ・ピアサポートを確立する結クラス活動
- 話し合い活動の充実（少数意見の尊重、折り合い、合意形成→納得解、最適解へ）

■自己指導能力を高める指導

- 年間のビジョンをもった指導

義務教育学校のトップランナーとしてのモデル校

白川村の未来の創り手を育てる学校

めざす学園像「未来づくり工房」

子どもも教職員も 命を輝かせながらイキイキ活動し 未来に向けて夢をはぐくみ合う学園

家庭・地域との連携

PTA（家庭）、学校運営協議会（地域）とのアライアンス

- 「充実・充足・展望」の下、学校と保護者の願いを一つにした取組の推進
- 教科、道徳、村民学、個人探究学習における、子どもの「見たい」「知りたい」「やってみよう」を実現させるための地域人材とのマッチング
- 行事、日常活動における、子どもの「地域の方と一緒に楽しみたい」「よりよい村にしたい」を実現させる地域活動の提案
- 家庭学習や自分の興味・関心あることにおける、子どもの「知りたい」「なりたいたい」「極めたい」の実現に向けたシートの協働制作、協働活用

教職員の指導の構え

当事者意識をもち主体的に参画＝働き甲斐＝Well-being

- 全教職員で、全児童生徒を育てる「オール白川郷学園」
- 子どもに失敗はつきものだという認識の下、子どもの挑戦に対する温かい眼差しと失敗に対する寛容さをもつ
- 「今」「この子」に軸足を置いた議論型・提案型学校運営
- プロの教育者の私たちも、「好き」を育み、「得意」を伸ばす
- ワークライフバランスの推進（時間外在校等時間月45時間以内）

■全職員が危機管理意識をもつ

- ・最悪の事態を想定し、慎重に素早く、誠意をもって組織的に対応→「命」に係る事案は最優先
- ・「危機管理マニュアル」の共有、「命を守る訓練」等の工夫

■子どものために情報発信を積極的に行う

- ・報道提供、学園だより、HP等の活用による積極的な子どものよさの発信

■学校評価を生かした改善～OODA（観察Observe、判断Orient、意思決定Decide、行動Act）でスピード感をもった改善～

- ・児童生徒と教職員による定期的な自己評価・保護者や学校運営協議会による外部評価→学校評価に基づく改善策を議論、発信